

令和6年度 磐田市立磐田中部小学校 学校評価書

評価指標・・・学校評価アンケートの項目、番号は、学校評価アンケートの項目番号
割合・・・学校評価で「強く思う」「だいたいそう思う」と回答した児童や保護者の割合(単位は%)

	重点プランと数値目標	番号	評価指標	割合	自己評価	考察・改善
知育	<p>自分で、友達と、試行錯誤する中で「わかった」「できた」を実感する子</p> <p>【重点活動】 「わかった」「できた」を実感する楽しい授業づくり</p> <p>【数値目標】 基礎的基本的な学力が身につけている90%</p>	11	基礎基本的な学力が身につけている	91	A	<p>○「みんなでつくり、考えを再構築する授業」を研修テーマに「自分事」「対話」「試行錯誤」をキーワードに、子供が自分の考えを再構築する姿を目指して研修を進めてきた。「学んでいることが自分の力として身につけている」と実感している児童も多い。今後も職員の研修の機会を大切に、子供の学びを保証していきたい。身につけた基礎基本的な力を生かし、主体的・探究的な学びを深めることができるよう、総合的な学習の時間の計画や活動内容を見直していく。</p>
徳育	<p>主体的に活動を楽しみながら自他のよさや違いを認め、自分も相手も大切にしている子</p> <p>【重点活動】 「自分の安心空間」を実感する学校・学年・学級づくり</p> <p>【数値目標】 学校が楽しい100%</p>	1	学校が楽しい	90	B	<p>※「学校で楽しく生活している」という質問に対し、多くの児童・保護者・教師が「そう思う」と回答していることに、学校が子供たちの居場所として確かな役割を果たしていると感じるが、目標とする100%には到達しなかった。特に、「学校が楽しいとまったく思わない」という児童が0になるよう、どの子にも居場所があり、安心できる学校となるような教育活動を工夫していく。学府としても、子供たちの自己肯定感や自己有用感を高めていけるように、連携しながらレジリエンスの育成を目指して教育活動を進めていく。</p>
体育	<p>体を動かす心地よさを実感するとともに、心身の健康をめざし実践する子</p> <p>【重点活動】 「人生100年時代に向けて」心身の健康づくり</p> <p>【数値目標】 心身の健康を大切にしている95%</p>	25	病気を予防し、健康な生活を送ることができるよう、自分で気を付けている	98	A	<p>○運動について 体を動かす楽しさを味わったり技能を伸ばす場を設けたりしたことで、体育の授業以外にも体を動かす機会を作る工夫をした。体を動かす心地よさを実感できた児童が多いため、継続していく。</p> <p>○健康について コロナ禍で身に付けた、手洗いやうがいといった基本的な感染症対策を意識し、予防のために実践できていると実感できている児童が多い。今後も食事や睡眠といった生活習慣にもより一層取り組んでいけるよう、家庭との連携を図っていききたい。</p>
開かれた学校	<p>地域と共にある学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールの推進 ・PTA活動の活性化 ・学校運営協議会の充実 ・いずみサポーターズ(学校支援ボランティア) 	9	小中一貫教育で取り組んでいることを知っている	89	A	<p>○CSCが中心となって実施した「まちなか先生」や下校見守りボランティア、掛け算九九・リコーダーサポーター、PTA役員によるマラソン大会の児童観察など、地域や保護者の方に力を借りながら、教育活動を推進することができた。子供の学びの充実のためにも、今後も共に教育活動を進めていきたい。</p>
		22	保護者や地域からの協力を得て教育活動を進めている	96	A	
学校関係者評価委員	<p>・多様な子供たちに対して、学校が様々な対応をしていることが分かった。どの子にも居場所があるよう、子供たちのために地域の大人が何ができるか考えていきたい。</p> <p>・地域と子供たちの交流を図っていききたい。そのために、学校のことをもっと知りたいと思う。</p> <p>・学校運営協議会の意義について知る良い機会になった。学校・子供たちのためにできることを協力していくために、学校にかかわる様々な立場の方のをお互いに理解し、連携する必要がある。CSCの存在についても、もっと周知していくとよい。</p>			<p>て学校関係者評価を受け</p>	<p>・学校と保護者、そして地域が一体となっていなくても学府の子供たちを育てていくために、地域の中の学校という意識をさらに高めていく必要がある。学校や学校にかかわってくださる様々な方のことをもっと多くの方に知ってもらえるよう、学校の取組や子供たちの様子を発信する場を増やしていく。</p> <p>・学校教育目標の実現を目指し、子供たちが主体的に取り組む十分な時間・場を確保し、試行錯誤する中で互いの良さを認め合い、自分の良さを知ることによって自己肯定感を高め、集団の一員として他者のために行動できる子を育てる教育活動を今後も推進していく。</p>	